

飛耳長目〈第24回〉開催概要

| | |
|-----|------------------------------|
| 日時 | 令和7年3月28日(金) 午後3時から午後4時30分まで |
| 場所 | 安曇野市役所2階 会議室201 |
| テーマ | 環境にやさしい農業を広げる施策について |
| 参加者 | 学校給食に有機米を提供している農家の皆さん 9名 |

学校給食での有機米提供の今後

参加者 2021年から学校給食に有機米を提供している。農業を取り巻く環境は厳しく、提供農家と給食費も限られているため今後の提供量は伸び悩むと懸念している。農家の担い手不足や生物多様性の衰退、農業資材の高騰など課題は多いが、私達の活動が市の発展に協力できたらと考えている。

参加者 今年度は有機米を4回提供したがまだ足りないと思う。新規の提供農家を増やすことが重要だ。有機JAS認証の取得は厳しい基準をクリアする必要があり、ハードルが高い。まずは減農薬減化学肥料栽培で間口を広げ有機栽培につなげたい。学校の授業でも有機農業を取り上げ、環境を守る大切さを学んでほしい。農家と直接交流する授業ができないか検討いただきたい。

市長 子どもたちには有機米だと知った上で食べてほしい。来年度は堀金小学校で農家の皆さんとの交流給食を予定している。皆さんには子どもたちへ有機米の説明をお願いすることになると思う。有明あおぞら認定こども園では園庭に小さい田んぼを作っている。子どもの頃から農業に親しむことは大事なことだ。有機農業を始めるとなると、認証取得が必要だが指導者はいるのか。長期間化学肥料を使った土壌はそれらが残留していると思う。

参加者 私は県から依頼されて推進アドバイザーを務めている。はじめからJAS認証を取得することは難しいため、希望者には一定の時間が必要だということも併せて説明している。

市長 ヨーロッパやアメリカではオーガニックが当たり前になっている。あとはコストが課題となると思う。給食費は年々増加しており、増加分は市が負担している。国は無償化を目指しているが、実現したら市の負担も増えると思われるため、国の動向を注視している。特別栽培や有機栽培は慣行栽培よりコストがかかるのか。

参加者 市販の有機肥料は一般の肥料より高額だ。たい肥または肥料をまったく使わずに栽培すればコストはかからないが収穫量は落ちる。

市民への有機農業の啓発活動

参加者 市には広報紙やホームページ、動画などで有機農業がつくる環境と食の豊かさを伝えていただきたい。田んぼにはさまざまな生物がいるが、殺虫剤により生息数が減っている。有機栽培のように殺虫剤を使用しない栽培は可能であり、慣行農家や市民にも知ってもらいたい。

参加者 最初は説明書通りに栽培するが、しばらくすると除草剤を使いたくないといった自分の気持ちが出てくる。農業は自分で考えることが大切だ。

参加者 40年前に有機栽培を始めた。徐々に取り組む農家が増え、学校給食での提供が始まってより浸透してきている。動画で生産者を紹介すると安曇野の農産物も売れるようになる。

市長 アイディアをいただいたので、広報紙や動画での広報を検討したい。

オーガニックビレッジ宣言

参加者 生物多様性、持続可能な社会とは何かを見直すきっかけとするため、オーガニックビレッジ宣言に参加してはどうか。県内でも6市町村が参加しており、クリーンなイメージがある安曇野が宣言することでブランド力の向上につながる。宣言で得られる交付金で、学校給食で提供する有機米の購入費用の確保もできるかもしれない。有機栽培技術の確立や農業機械の導入に活用できる事業もあるので、併せて検討していくとよい。慣行農業と共存し、宣言に向けた準備をお願いしたい。

市長 人口や農業規模が類似する飯田市も参加している。宣言に向けた準備を進めたい。

参加者 農政課には、有機栽培に興味がある農家からの問い合わせは来るのか。興味を持ってもらえば取り組む農家も増える。

担当職員 まだまだ少ないのが現状だ。

有機農業への助成

参加者 オーガニックビレッジ宣言への参加が実現した時には、有機 JAS 認証の取得費や農業資材・機械の導入補助を行って広めていただきたい。

市長 有機 JAS はどの機関が認証しているのか。

参加者 国で定めた機関で認証する。現場まで来ては場を確認し、厳しく審査している。面積が増えるほど認証にかかる費用は高くなる。

- 参加者 長野県で住民参加型の地域認証制度の意見募集をしていた。これは地域が独自に基準を定めて認証できる制度で消費者と生産者、行政が関わっていく面白い取り組みだ。
- 市長 農政課では世界農業遺産の登録を目指し、専門家からの助言を受け準備を進めている。安曇野には掘り起こせる資源が多くあるので生かしていきたい。
- 参加者 炭素循環農法で農業をしている。循環する有機栽培ができないか検証するために、さまざまな工夫をして米を栽培している。
- 参加者 ほ場へのごみのポイ捨てが非常に多いため、対策を考えてほしい。一部の肥料から出るマイクロプラスチックは将来、必ず影響が出てくる。環境負荷が少ない肥料を使う農家には補助金を出すことも検討してはどうか。
- 市長 認定基準をどう定めるかが課題。制度を設計する時はそれにかかる時間や労力まで考えなければならない。
- 参加者 有機農業で最も大きな課題は除草。除草対策として私はアイガモロボットを使っている。これは教材にもなっているため、学校現場での活用を検討してほしい。有機農業だけでなくプログラミングも学ぶことができる。
- 参加者 学校給食で年に数回有機米を提供しても、子どもたちの健康には効果がないのかもしれない。しかしオーガニックという言葉が市民の意識を動かしていく。有機米や特別栽培米を推進し、より多くの人たちが栽培を行うことで社会を動かす力になる。
- 参加者 今年度は年4回学校給食に有機米を提供した。来年度の予定は決まっているか。
- 教育部長 来年度も4回を予定している。
- 市長 皆さんの提案の中には早速動き出したい取り組みがあった。準備が整い次第、実行に移したい。